

市長の政治姿勢について

代表質問

自由民主党の会

北田 宏彦 議員



問 千葉県では2025年度採用試験に合格した1,146人のうち3割超に当たる420人が内定を辞退している。本市の職員採用状況、対応策について伺いたい。

答 令和7年度合格者は31名、辞退者は9名で、割合は29%。今後、受験可能年齢の拡大など、受験しやすい環境を整備していく。

働きやすい環境づくりや将来展望に希望を持てるよう魅力を発信し、優秀な人材確保に努めて頂きたい。

問 大網駅周辺の浸水対策について金谷川河川改修工事、小中川河川改修工事の進捗状況について伺いたい。

答 金谷川改修は、JR東金線横断部区間を予定し、JRへ工事を委託する。小中川改修は、今年度40mの護岸工事及び道面橋掛け替え工事に向け設計を予定し、残る約80mの護岸工事を早急に進めていく。

問 永田駅周辺の浸水対策について赤目川河川改修工事の進捗を伺いたい。

答 上流400m区間にある橋梁や堰の設計と調節池関連の設計を予定。県に早期完成を要望して頂きたい。

問 小中川堤防における洗掘箇所の修復工事の進捗状況について伺いたい。

答 富田堰上流左岸及び駒込橋下流、みやこ野の両岸2か所の補修工事を予定。早期の復旧を県に要望する。

県に予算を確保し河川管理するよう強く要望をお願いしたい。

問 今年度は浸水被害区域の排水路掘削は予定しているか。

答 金谷川の暗渠部、谷中川調節池、四天木地区の排水路の暗渠部を予定。

問 市有地の利活用方針を伺いたい。

答 用途地域の制限や境界未確定など課題を整理し、有効活用を図る。

問 旧大網駅隣接市有地は、図書館等の複合施設の計画であったが、利活用を考えているのか。また、旧庄ぜん跡地は、後背地と一団で開発をする市の考えに基づき、売却を断った経緯がある。後背地と一団利用するには、所有者との合意が必要となるが、どう利活用していくのか。

答 旧大網駅隣接市有地は、課題が多く、利活用が定まっていない。旧庄ぜん跡地は、一部に共有名義の土地があり、課題となっている。

今後適切な対応を願うし、地権者の合意ができなければ市有地単独での売却等利活用を考えてはどうか。

問 共有資産の分割課税について本市では地方税法第10条の2第1項を根拠として共有代表者に課税し、代表者が共有者間で協議の上、納付することとしているが、他市町では特別の事情が認められる場合に、共有分割課税を行っているが、如何にお考えか。

答 他市町で、特例的な取扱いとして各共有者へ共有持分割合に応じた納付書の送付を行っている例もある。

問 相続などで親族が共有している場合は、協議も容易だが、第三者が共有の場合、納税者間の協議は難しい。特別の事情が認められる場合に限り、分割課税を適用しては如何か。

答 他団体の事例を参考に、前向きに対応を調査研究していく。

市長は、全員協議会などで、道の駅整備検討を中止すると公表した。道の駅が白里地区の活性化の起爆剤になると令和5年12月に検討委員会を設置し、延べ11回の会議を開いた。令和5年第3回定例会で「交流拠点施設の整備が必要であり、課題を整理し検討を行う」との答弁に対して

私は、「白里地区の活性化は大賛成である。高齢化率44.6%で超高齢化が進んでいる。若者が定住し、生み育てていく仕組みをつくらなければいけない。しかし、道の駅が本当に白里地区の活性化の起爆剤になるのか、果たして時代は道の駅なのか、数々の活性化策を検討した結果が道の駅という結論なのか。先般、本市の経常収支比率が99.5%と報告があり、財政の硬直化は変わらず厳しい状況が続いている。仮に道の駅が最善策だとしても財政状況が安定してから取りかかるべきではないか、物事には優先順位がある、道路などがかなり傷んでおり、草も伸び荒れている状況を見受ける。優先順位を考えるべきではないか」と意見している。市長には、漸く気づいて頂き感謝しているが、市民から思いつきや成り行きで政策を進めていると思われたいようにして頂きたい。市長の意思決定の信頼性が損なわれ、判断を裏付ける客観的な根拠やデータに基づくことが必要だ。委員の皆さん、企画政策課職員も大変お疲れ様でした。

関連質問

田辺 正弘 議員



瑞穂地区コミュニティバス「みーバス」の運行状況について

問 令和元年第2回定例会において、私は小湊鉄道のみずほ台循環路線バスについて質問しており、この時は、みずほ台から大網駅そして日中はイオンまで行くルートでした。その後、令和5年3月小湊鉄道によるみずほ台循環路線バスは廃止になりました。みずほ台団地を含む瑞穂地区では、買い物や通院、市役所等の移動のための交通手段が無い、いわゆる交通弱者の方々が多く存在することになりました。その後も、私は要望してまいりまして、本年4月

から新たに瑞穂地区において、コミュニティバス「みーバス」の運行が開始され瑞穂地区の公共交通空白地域の大部分が解消されることになったことは、大きな前進であると思います。ぜひ地域住民の方々の貴重な移動手段として、持続可能な運行をお願いしたいと思っています。

答 瑞穂地区コミュニティバス、愛称「みーバス」は、瑞穂地区と市内中心部を結ぶコミュニティバスとして、本年4月1日から運行を開始しました、1日7便で365日運行しており、利用者は、4月は636人、5月は581人、2か月の1便平均利用者は2.9人です。最後に、利用者の降車が多い停留所は、大網駅、イオン、大網病院です。

問 大網駅周辺の排水対策について、千葉県による調査検討の結果、小中川及び金谷川の改修と併せ南玉地区幹線排水路の拡幅整備も必要との方針が示され、千葉県等関係機関と連携を図り、効果的・効率的な整備手法を定めると。

答 その検討結果として、小中川及び金谷川の改修整備に加え、新たに南玉地区の幹線排水路の整備も必要との方針が示され、これを受けて市では昨年度より、整備手法について調整池の整備や排水路の増設など検討し、今後は整備手法について、事業者等の精査も含め、9月補正予算において実施設計の費用を計上する予定です。

問 「おおあみしらさとの花火」の開催日程を今年は9月26日になぜ変更したのか、市内外のお客様は戸惑っています。なぜ変更したのか。

答 会場警備等関係者の健康面を考慮し、猛暑日避けた開催日にすべきではとの意見に加え、海の家連絡協議会から、繁忙期の開催は避けてとの要望を踏まえ、本年度の開催日を9月26日に変更決定しました。

個人質問

市民には禁煙を強いて、職員には専用喫煙所があるのは妥当か。

黒須 俊隆 議員



5月31日は世界禁煙デー、6月第1週は禁煙週間となりました。保健文化センターの階段には、大きく「なくそう受動喫煙」の掲示がされており、大変よい工夫だと感じました。

問 庁舎の喫煙所と健康増進法について質問します。

健康増進法では、市役所庁舎などは敷地内禁煙になっていきます。喫煙所に対しては細かい規定がありますが、市庁舎屋上の喫煙所は規定を満たしているのでしょうか。あるいは、健康増進法で想定されている喫煙所ではないのでしょうか。

答 平成31年1月、健康増進法において、学校、病院、行政機関の庁舎など、第一種施設の敷地内での喫煙が禁止となりましたが、例外的に特定屋外喫煙場所を設置することが認められています。

この特定屋外喫煙場所を設置するために必要となる条件ですが、1点目として、喫煙をすることができるところが区画されていること、2点目として、喫煙をすることができるところである旨を記載した標識を提示すること、3点目として、施設の利用者が通常立ち入らない場所に設置することの3つの条件を満たす必要があります。

本庁舎につきましては、屋上にこれらの条件を満たした特定屋外喫煙場所を設けていましたが、現在、本庁舎整備改修工事の中で屋上防水工事を実施していますことから、一時的に特定屋外喫煙場所がない状態となっています。

問 庁舎改築後の喫煙所の運用はどのようにになりますか。

答 屋上防水工事が完了した後、特定屋外喫煙場所を再設置する



計画です。

考え方は分かりましたが、原則禁煙の公共施設で、市民には禁煙をさせて職員には喫煙所があるというのが果たして妥当でしょうか。法律の趣旨からすると、職員の健康を優先する施策へ舵を切るほうがよいのではないかと私は考えます。ぜひ職員間でも議論を進めていただきたいと思います。

問 禁煙外来を大網病院はいつから始めましたか。これまでの受診者数、効果についてお答えください。

答 禁煙外来につきましては、令和7年3月より診療を開始しています。これまで15名の方が受診しておりまして、現在も治療中の7名を除いた8名のうち5名が禁煙に成功しています。このことから、ある程度禁煙に向けた有効な支援になっているものと考えています。引き続き、1人でも多くの患者様が禁煙を達成できるようサポートを行ってまいります。

現在、本庁舎は工事中で喫煙所がないということで、2か月間も喫煙所がないと禁煙症状に襲われる職員もいると思いますから、ぜひ禁煙外来を使うように勧めていただければと思います。